

12 ボリビア

AMDAボリビア支部長

エステバン・フォイアニーニ医師(51)



4千メートルを超す山々が連なるアンデス山脈、低地には熱帯雨林やサバンナ。標高差が大きいボリビアの国土は多彩な自然が特徴です。

1825年に独立したボリビアですが、その経済を支えてきたスズや綿花などの世界的な下落と、極度のインフレが経済を直撃。総人口の半分は日収2ドル以下の貧困層、そのうち4割は1ドル以下の最貧困層とされています。

クーデターが頻発するなど政局も不安定で、国民生活を大きく混乱させました。一時はコカ常用者が国民の半数を超え、幼児の死亡率もかつては千人のうち100人以上の高い数字を示すなど、多くの課題を抱えてきました。

外科医だった私の父、ホルヘ・フォイアニーニはAMDAボリビア支部の初代代表で、国内で初めて腹腔鏡手術の技術を取り入れ、普及に努めました。

救急救命の普及に尽力

父の志引き継ぎ活動

新たな挑戦として、ボリビア支部の前身となる非政府組織(NGO)「救急救命対策協会」も結成しました。医師や看護師、消防士らに外傷患者の救命措置の研修をするのが目的でした。

ボリビア支部がある国内第二の都市サンタ・クルスは安全運転教育が十分でなく、国内では交通事故が最も多いところですが、患者を病院へ届けるまでの救急医療体制はほぼ皆無でした。病院の多くに救急車はあるものの、十分な医療器具がなく、訓練を受けたスタッフも数えるほどでした。

ボリビア支部は1997年から一般医を対象に、外傷に対する初期治療の研修を実施、毎年多くの人に救命救急の訓練をしています。修了生の中からインストラクターを選び、各地で研修を行うことで全土にわたる普及を目指してきました。

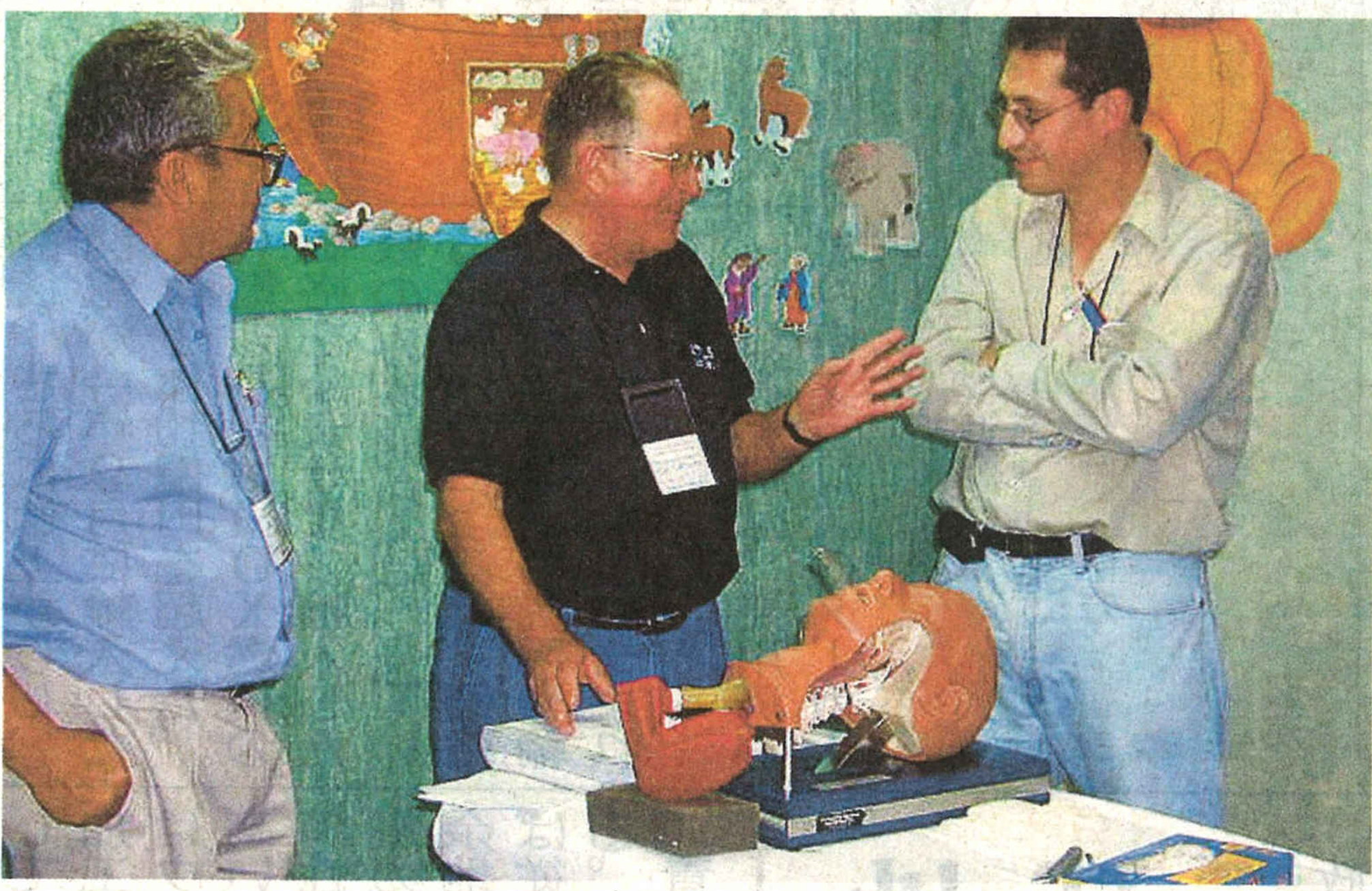
までとは異なるプロジェクトにも力を注ぎました。フォイアニーニ医師センターを創立したのです。38人の経験豊富な医師が勤務、入院施設も備えた施設です。

彼は各地に出向いて医師、看護師らに重篤患者への救命研修も行いました。必要なプログラムは海外から取得するなどしてボリビアの医療レベルの向上に努めたのです。

患者に献身的だった彼の志を引き継ぎ、今後もAMDAの一員として、祖国の発展に寄与したいと願っています。(おわり)

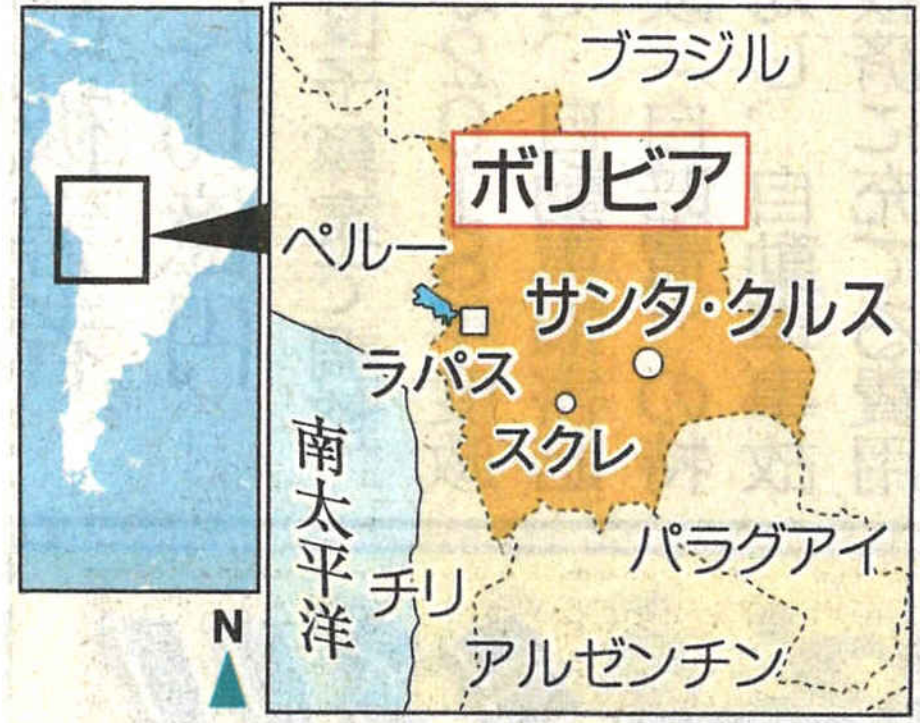
世界32カ国に支部を持つAMDAは、12回にわたった今回の連載で「平和」を阻害する内戦、テロ、災害、貧困などの現状と課題、各支部の取り組みを紹介してきました。まだまだ道半ばです。これからも「医療と平和」を理念に活動を続けていきます。

救命研修を行うホルヘ・フォイアニーニ医師



64歳で死去した父は最後の3年間、それ

(AMDA本部)



ボリビア 正式名は「ボリビア多民族国」。南米大陸のほぼ中央部に位置する共和制国家。面積は日本の約3倍の109万8000平方キロで、人口は約1000万人。憲法上の首都はスクレだが、政府主要機関はラパスにある。言語はスペイン語やケチュア語、アイマラ語など。宗教は大多数がキリスト教。AMDAボリビア支部は1997年に開設。スタッフは4人。